

新本館と全域奉仕の 運営／経営の方向性

多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会（第6回）

平成28年11月20日

多摩市の図書館の基本方針（政策）

「多摩市立図書館の基本方針・運営方針」平成23年4月

基本方針：市民の「知る」を支援する

- 持続可能な社会を目指し
- すべての市民が必要とする資料や情報を得ることを支援
- いつでも、どこでも、だれでも
- 地域や他機関と協力
- 市民のみなさんと一緒に

図書館の基本方針の前提としてあるもの

図書館の基本方針

市民の「知る」を支援する

- ① 多摩市自治基本条例
- ② 多摩市第五次基本構想

多摩市自治基本条例

第4条（基本原則）

（2）市民、市議会及び市の執行機関がまちづくりに関する互いの情報を共有すること

第17条（情報共有）

市議会及び市の執行機関は、保有する情報が、市民共有の財産であることから、これを市民にとってわかりやすいものにしなければなりません。

2 市議会及び市の執行機関は、市民の参画及び協働にあたって、情報が共有されるよう、必要な措置を講じなければなりません。

第五次多摩市総合計画基本構想

将来都市像：みんなが笑顔 いのちにぎわうまち 多摩

まちづくりの基本理念

1 市民主権による新しい地域社会の創造

- ・ ・ 地域のことをともに考え、主体的にまちづくりに取り組む ・ ・

2 豊かなまちを次代へ継承

- ・ ・ 受け継がれてきた財産を次代へ引き継いでいく ・ ・

3 自立的な都市経営

- ・ ・ 社会の変化に対応 ・ ・ 持続可能なまちづくり ・ ・

いずれも図書館の方針の本となる

多摩市自治基本条例

第五次多摩市総合計画基本構想

いずれも、図書館の

「知の地域づくり」

「市民の『知る』を支援する」

につながる、市の基本的考え方

基本構想に現れる基本方針

基本構想のことばで置き換えると

「ふるさと多摩市の記憶装置」

- 資料（情報）の奥行きと広がりをつくり出す
- 多摩市の人々と地勢がつちかった「歴史性」「地域性」を収集して、統合する図書館資料計画には、全ての行政部門との連携が必要

基本構想に現れる基本方針

基本構想のことばで置き換えると

「成長する有機体」

- 市立図書館のネットワークのみならず、学校や行政機関との連携も維持し、触手をのばしていく
- 「市民」と「世界」、「市民」と「地域社会」を「資料」で結びつける職員を育てる

基本構想に現れる基本方針

基本構想のことばで置き換えると

「社会を支える機関」

- 2050年に社会を支えるおとなを育てる
- 社会に参加する市民が育つことにより、社会全体に効果が及ぶ

運営／経営について

運営／経営について

運営の基本

1 「ふるさと多摩市の記憶装置」

地域資料を含め、長期的な方針に基づき、選書や棚づくりを維持する必要がある。

2 「成長する有機体」

市立図書館だけではなく、小中学校との連携を維持・向上し、他の機関を含めた連携を開拓することで、求められる図書館サービスを実現

3 「社会を支える機関」

教育機関として、資料／情報面で生涯学習を支え、学校教育を支援する

運営／経営について

「ふるさと多摩市の記憶装置」

「成長する有機体」

「社会を支える機関」

今後は、

地域の課題解決につながる情報を、行政との連携を密に、収集し、発信していくことが、より求められる。

小中学校を支援し連携することや、市内の行政機関などとの連携がより重要となる。

運営／経営について

「ふるさと多摩市の記憶装置」

「成長する有機体」

「社会を支える機関」

これらを維持・向上するためには

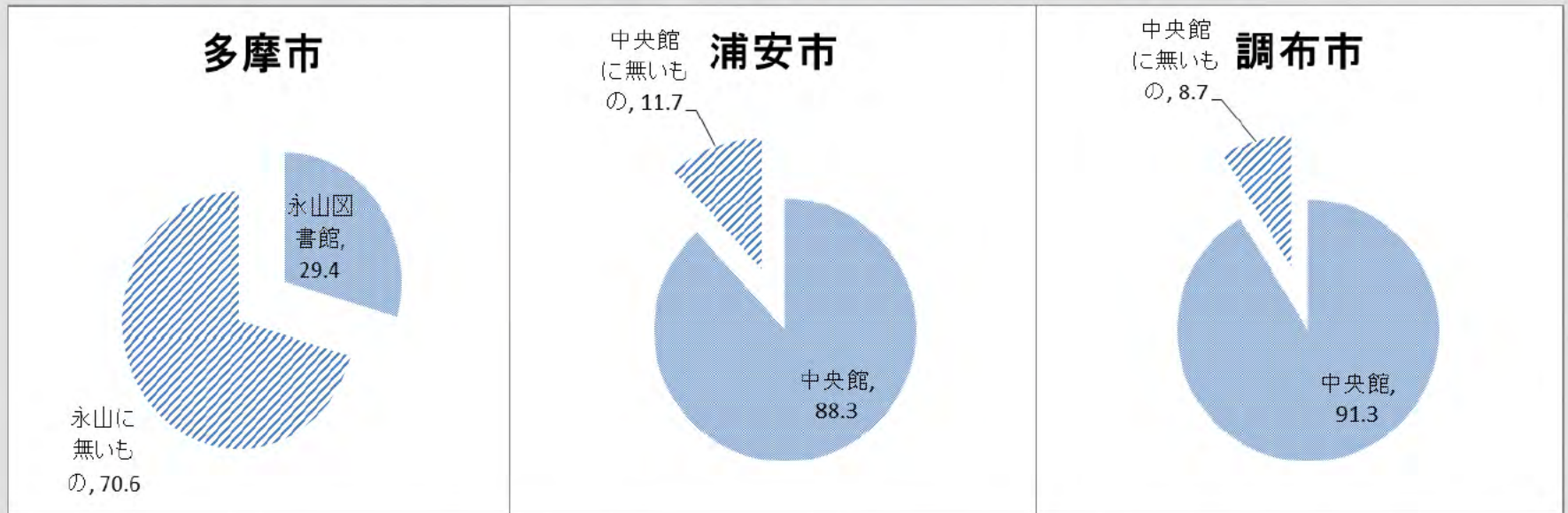
目録情報作成やコンピュータシステム保守など専門的部分や効率的な部分は、引き続き外部の力を借りながら

マネジメントや、選書、レファレンスを支える資料構築など、図書館機能の根幹となる部分は、直営を維持する必要がある

運営／経営について 個別テーマで

運営／経営について 資料

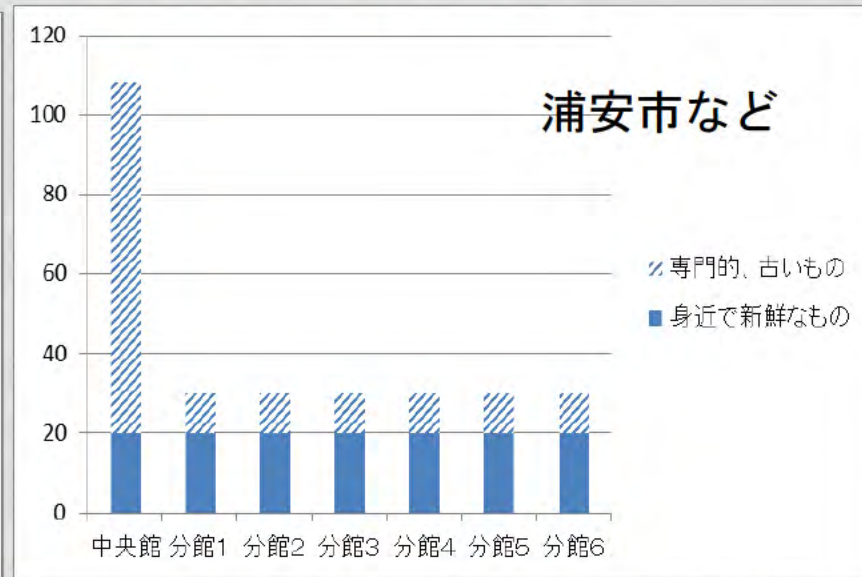
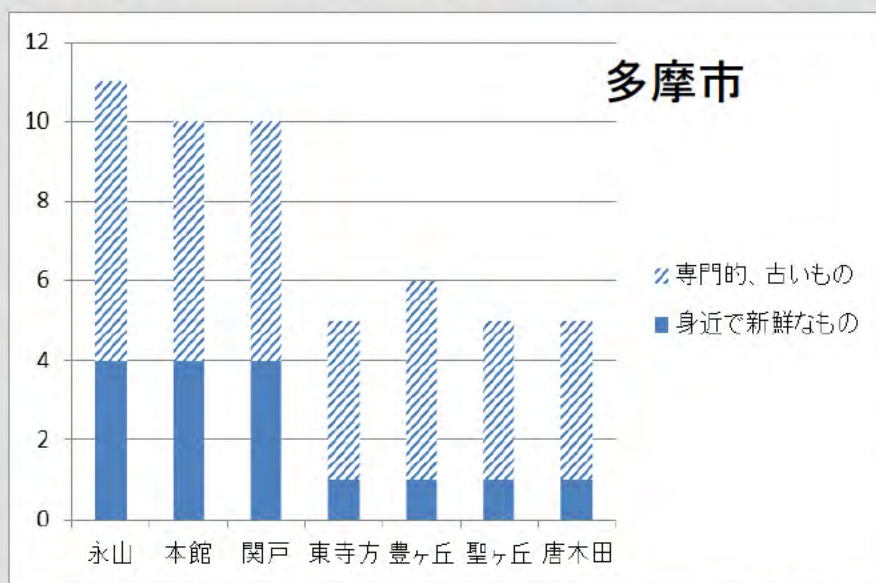
松本委員からの提言（3） 相対中央館アクセス率



中央館がある浦安や調布は、中央館に行けば「全体像」に近いものが見渡せる。

運営／経営について 資料

松本委員からの提言（3） 相対中央館アクセス率



多摩市では、専門的なものが揃っておらず、身近なものも分館に充足できていないのでは

※ グラフは、イメージを表したもの

運営／経営について 資料

資料配置の今後の方向性

新本館では、現在課題のある書庫も整備

新本館：「専門的」「奥行き」「広がり」

分館：「新鮮」「身近」「普段必要なもの」

※ 分館にリクエストで取り寄せる際も、新本館からこれまでよりも体系的に取り寄せることができる。

運営／経営について 職員

「職員」における課題

専門性が必要

- 今後の図書館政策の舵取りをする
- 図書館経営の効率化を図る
- 多摩市民に必要な資料を収集する
- 専門的な市民サービスを提供する

運営／経営について 職員

「職員」における課題

専門性が必要 しかし、貸出や予約受渡しなどの作業に追われて、図書館を発展／向上させる、様々な機関と連携するための時間がなく、コミュニケーションも不足。

- 方策1 核となる職員の集約
- 方策2 開館時間におけるメリハリ
- 方策3 ICTの活用

運営／経営について 職員

方策1 核となる職員の集約

職員の役割の見直し

⇒ マネジメントや選書のための時間創出

運営／経営について 職員

方策2 開館時間におけるメリハリ

関戸、永山の夜間開館、祝日開館
さらに時間延長の声（コストにも影響する）

- 全部で対応するのではなく、メリハリをつける
- ⇒ 24時間予約の受け取りボックスの利用
 - ⇒ 夜間開館の曜日住み分け
 - ⇒ 学習スペースだけ時間延長

運営／経営について 職員

方策3 ICTの活用

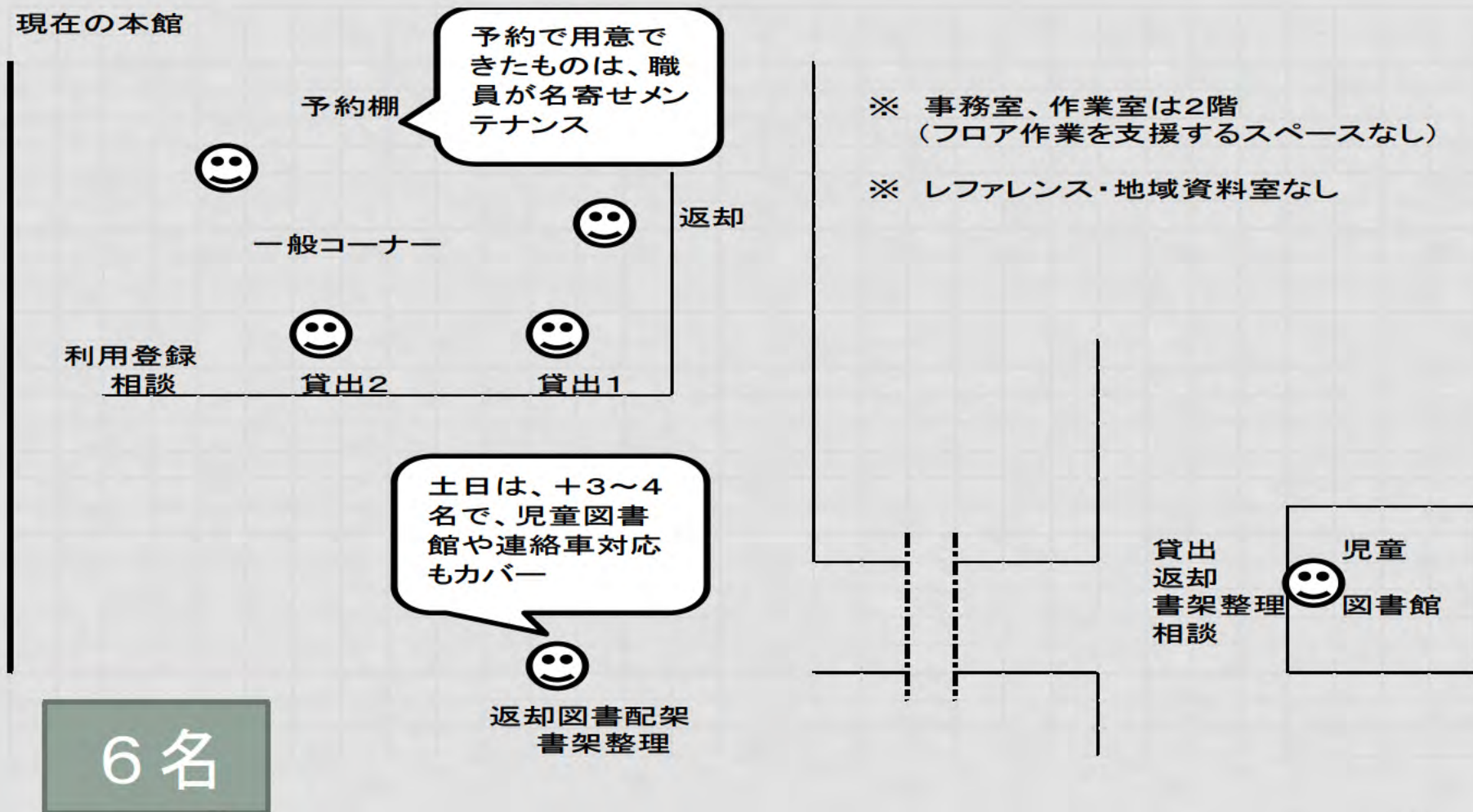
人口規模で、貸出冊数2位、予約受付件数1位
貸出作業、予約図書の名寄せや受け渡し作業の負担大

⇒ ICタグによる自動貸出、自動予約棚

運営／経営について

施設

現在の本館

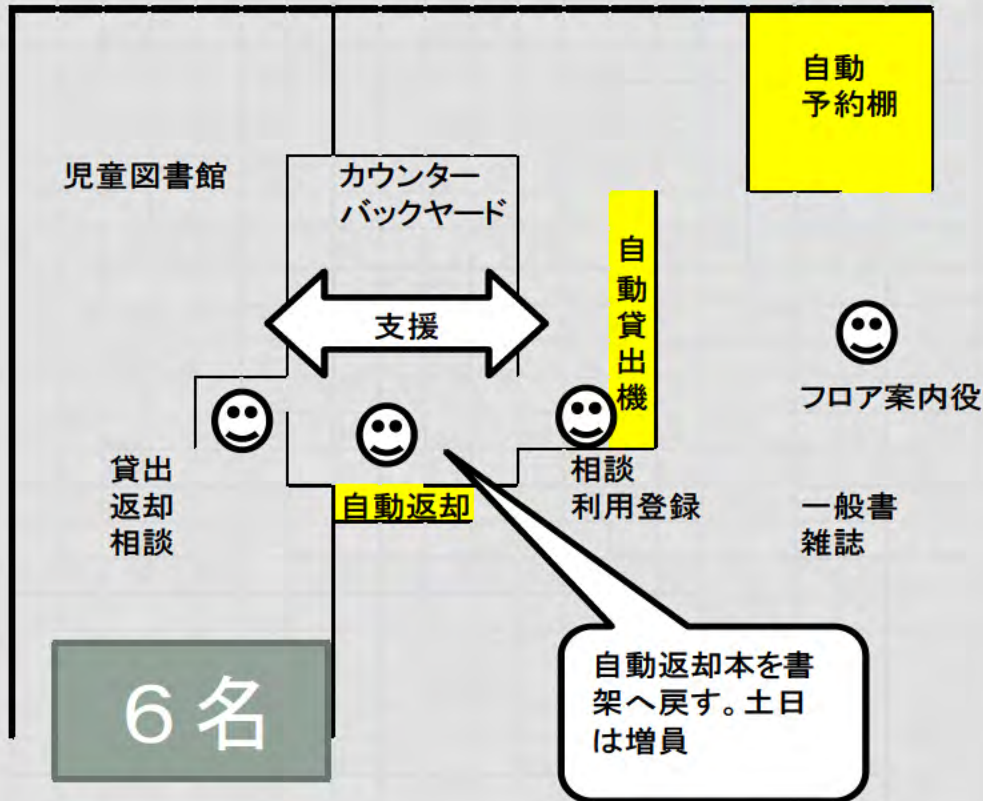


運営／経営について

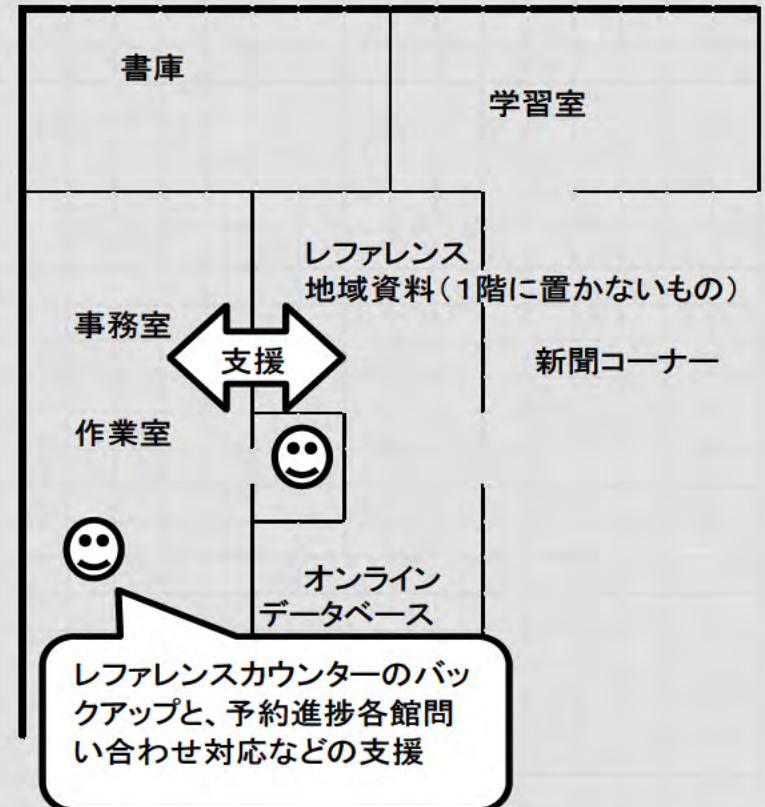
施設

新たな本館のカウンター配置イメージ

1階 にぎわいのあるフロア

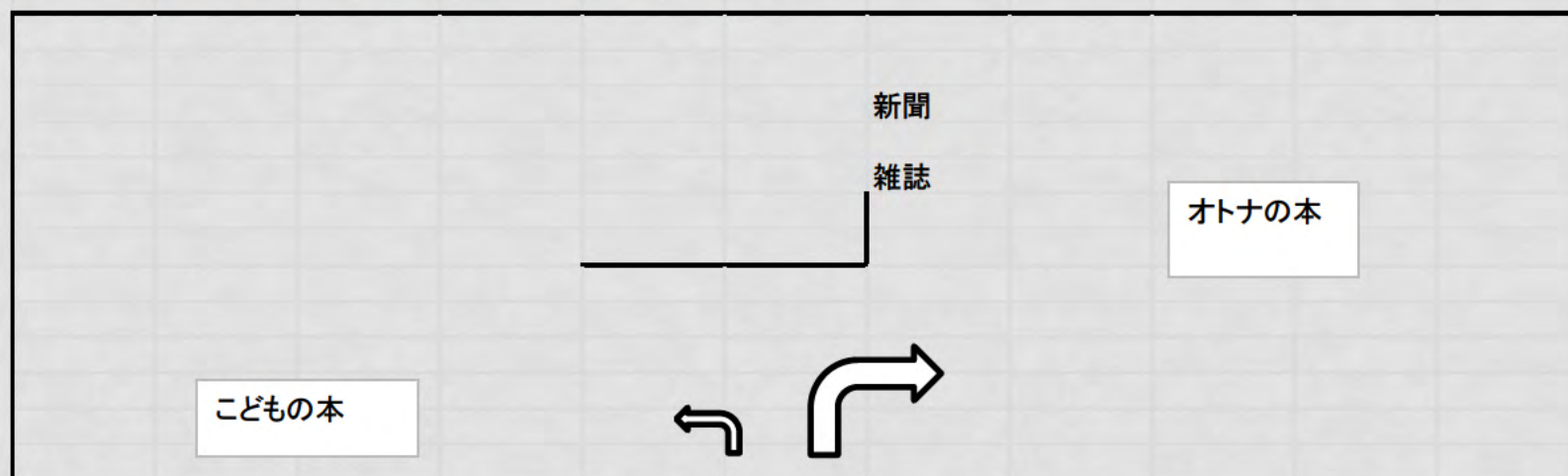


2階 静かな調べ物のフロア



運営／経営について 施設

「うるさい！」という問題



運営／経営について 施設

「うるさい！」という問題

⇒ 「静かに本を読む」スペースと

親子で楽しみ滞在できる「ひろば」をわけるレイアウト

⇒ 図書館職員が利用者の意見を聴きながら、今後のレイアウトを研究

運営／経営について 施設

考慮事項

- 中央公園に隣接し、多摩ニュータウンの中心に、より魅力のある文化的エリアができていくことへの配慮
- 収容能力に応え、増床可能な書庫
- 図書館職員の作業に適した事務室、作業室、エレベーターなどのレイアウト
- 人件費を抑えるための人員配置に配慮した設計
- 市民にとって、公園や古民家と隣接・連携し、「ひろば」となるような図書館

運営／経営について 施設

今後の図書館施設検討においては、

運営主体である図書館職員の意向

+

図書館利用者の意向

+

周辺環境、他の公共施設との連携考慮

+

環境配慮、経済性、発展可能性

などを考慮した、計画、設計の各段階が重要になる。

運営／経営について 経済性／効率性

図書館も、持続可能であることに留意が必要

経済性：投入する費用を減らすこと

効率性：投入する費用によるアウトプット、アウトカム
を最大化すること
(同じ効果を、少ない経費で出すこと)

運営／経営について

経済性／効率性

図書館費に占める「人件費」と「資料費」

	平成26年度	平成27年度	貸出密度上位10% 市町村
図書館費 (人件費含む)	637,092千円 (766,329千円)	629,888千円 (765,910千円)	—
普通会計決算額に 占める図書館費	1.25% (1.50%)	1.16% (1.40%)	1.30%
人件費	471,116千円	461,481千円	—
図書館費に占める人件費	73.9%	73.3%	—
資料費	50,492千円	55,391千円	—
普通会計決算額に占める資料費	0.99%	0.10%	0.15%

※ 貸出密度上位10%市町村の数値は、「豊かな文字・活字文化の享受と環境整備」（日本図書館協会）より。

※ 図書館費（）内は、施設白書より算出。なお、27年度分の（）内は図書館による推計値。他市との比較では、大きめの数字になると考えられる。

運営／経営について 経済性／効率性

経済性／効率性における今後の方向性

人口減、福祉や医療にかかる経費の割合増
⇒ 図書館費全体を抑える必要

経済性を高めてアウトプットを上げるには
⇒ 4分の3を占める人件費の抑制と
資料費の割合を上げていくことが求められる